

伊人のかみしり 秋

特別
~4
7351
3



特

八4

7351

3

56-4043



立秋

秋の川日なり秋の三日よりとやおのれ〜〜暮秋
にハニ道あるも神乃とふ是う〜〜も暮秋
乃おのれりり〜〜を初〜〜もい〜〜は暮秋
を暮〜〜はよ〜〜りやとそ〜〜んよ〜〜ひ風の所
に暮〜〜て松よ声そふれとあり〜〜暮秋
ゆの〜〜れ〜〜き〜〜〜おのれ〜〜一〜〜葉〜〜ち〜〜るとは

かねて一府乃風もさく 長春乃一夜も暫
 秋風 ぬらまきいふ秋もきいなりたはす
 しき物風 萩乃その秋乃も所風は又
 も秋もきくしき風 赤らり物もきき神
 今道行乃よ長く免れ秋とりの物後き回こ
 乃りぬる物も乃風 うらましくもさき
 乃りぬる物も乃風 うらましくもさき
 乃りぬる物も乃風 うらましくもさき

かりぬれ 秋もきくしき風
 神秋乃ん秋もきくしき風
 二〇二〇乃ん秋もきくしき風

山道に秋もきくしき風
 山道に秋もきくしき風
 山道に秋もきくしき風
 山道に秋もきくしき風

秋景

秋景ハ秋乃舟日乃船之船をもて舟ハ秋
くをこいしに舟をま川に航して舟も舟を
賞就と下ししそそて舟も 秋風乃舟も
下し舟ハ舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も
舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も
舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も
舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も
舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も

舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も

秋と舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も
秋風乃舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も
秋も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も
舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も
舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も
舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も
舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も

七ツメ

舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も舟も

花の香は風に乗って
 遠くまで届くまで
 花の香は風に乗って
 遠くまで届くまで
 花の香は風に乗って
 遠くまで届くまで
 花の香は風に乗って
 遠くまで届くまで
 花の香は風に乗って
 遠くまで届くまで

花の香は風に乗って
 遠くまで届くまで
 花の香は風に乗って
 遠くまで届くまで
 花の香は風に乗って
 遠くまで届くまで
 花の香は風に乗って
 遠くまで届くまで
 花の香は風に乗って
 遠くまで届くまで

皇命の御下りては
御座りては御座りては
御座りては御座りては
御座りては御座りては

名所ハこの川
此川に在りては
此川に在りては
此川に在りては
此川に在りては

萩

萩乃ちこの川
此川に在りては
此川に在りては
此川に在りては
此川に在りては

秋 秋きぬいささ
船 乃小舟ありむさし船 今かやうなるか
の 舟の礼とあり 今かやうなるか
草の中より秋 今かやうなるか
の 風とあり 今かやうなるか

秋と山下 秋乃言さすくわらう言に秋風そあそ
人こそあそび乃秋原言さすくわらう言に秋乃言さす
まよふ秋乃言さすくわらう言に秋乃言さす
くたより秋乃言さすくわらう言に秋乃言さす

秋乃言さすくわらう言に秋乃言さす
秋乃言さすくわらう言に秋乃言さす
秋乃言さすくわらう言に秋乃言さす
秋乃言さすくわらう言に秋乃言さす

秋

秋乃言さすくわらう言に秋乃言さす

乃と秋小陰中より 秋とよま志のきやうも 一有陰
こ初原秋乃多 相を結く 力もやうらふ秋
野秋ハ 母を志をとおるす どりひ 小男麻乃志
すむとまき 野の神 の乃秋をく 秋とよま結く
すり秋 神と分 秋乃の秋のうも陰 俗難の
乃秋とまき 名新のんく こそま乃 秋とよま結く
あまの月 乃秋とまき 秋乃の秋のうも陰 俗難の
あまの月 乃秋とまき 秋乃の秋のうも陰 俗難の

春日神 乃秋とまき 秋乃の秋のうも陰 俗難の
水也ハ 秋乃下るに秋の川 神を供ふ 小
名にちかかち 秋とよまき 乃秋の秋のうも陰 俗難の
名新ハ 玉川 乃秋とまき 秋乃の秋のうも陰 俗難の
秋不ハ 人とりぬまき 秋乃の秋のうも陰 俗難の
そこの川 秋乃の秋のうも陰 俗難の
原里人乃うけ 秋乃の秋のうも陰 俗難の

是下... 玉川の

里 玉川

... 秋秋乃... 神...

... 玉川の... 尾花

毛花のやにそたる神代は直に風のさひのそを
まよふふらふらふと志乃尾をさるるあやう
之水色のは波よさうらふ花のさうらふ
かゝれも糸のさうらふさうらふ風よさひ
りき乃雨白くかゝれかゝれこの風あは
にやひむるりたる秋風は礼々糸のさうらふ
まよふ世のさうらふまよふ維きてみよは

終く夕雲乃絶片にひひくお花の乃尾
一村をさ志がうあふ山田乃尾の尾尾
花の神代は直に夕雲乃尾の尾をさ
波はよさうらふ神代は直に志乃尾の尾を
まよふ風音有糸のさうらふ神代は直に
まよふ尾の尾をさ糸のさうらふ神代は直に
まよふ尾の尾をさ糸のさうらふ神代は直に

玉のひ 白手紙をうけし 乃玉にこれ
 誰か風又志印もさうさくともよし合ハ
 落風月 虎花 念所多し 男山江
二山と男にサして
 ぬしとてた乃んじやう づゝこり 遠乃遠乃遠
子枕也 白手紙乃んまき乃んぬの女印花と
うささ乃小野 秋きうたうら乃小むささ〜燈
義とる考乃 ちうけと〜し〜あ〜る
 せうりせとむささ乃んせと〜

乃乃あ〜ん〜たりと
 ちん又〜せ〜り ありと乃〜 ねて乃乃の形
 て乃川 小せ〜り〜るに

一一人の〜り〜して〜あ〜るに人まき乃女印
 白手紙か〜人女印花とあ〜れ〜人〜まき
 白手紙乃〜ら〜の〜乃女印花と〜ひ〜る〜むの
 物風更ら〜ふ〜か〜ん女印を〜ま〜ん〜れ〜乃〜賢と
 手紙より〜凡〜は〜か〜ん〜も〜ぬ〜ん〜れ〜乃〜ら〜ん〜と〜世〜後〜れ

葉

あつてはむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
まなれはむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
たつたむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
あつてはむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
まなれはむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
たつたむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
あつてはむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
まなれはむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
たつたむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは

あつてはむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
まなれはむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
たつたむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
あつてはむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
まなれはむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
たつたむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
あつてはむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
まなれはむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
たつたむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
あつてはむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
まなれはむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは
たつたむむ乃ららるるはよむむ乃らるるは

若くはぬめ、ハ誰とも自若乃に信じて自らの秋
 秋乃よれしとてゆかりハ信じてはれとてあらし
 咲きなりたぬきなり葉もささけもあふりハ
 秋ハまじくてもか別れあらしハ信じてはれとてあらし
 いらんか人かまよふかちんは秋乃好むハ信じて
 づらハ信じてはれとてあらしハ信じてはれとてあらし
 若

昔乃葉ハ風吹ハ知てハ葉乃ハ信じて
 ぬめハ信じてハ信じてハ信じてハ信じて
 秋乃好むハ信じてハ信じてハ信じてハ信じて
 いらんか人かまよふかちんは秋乃好むハ信じて
 づらハ信じてはれとてあらしハ信じてはれとてあらし
 若

秋風乃吹て〜
白露乃垂て〜
不世流る〜
〜
昔乃下を〜
うす 名所 此山徳は〜

神乃〜
志乃〜
乃〜
秋風乃吹て〜
秋乃〜
冬乃〜

秋風よれくくぬきぬきと流しし点
あまもくく今宵内乃落し夜もまき乃凡と
こ乃まよ今とまあこすて志し一恨中忘れしとまは道
秋風乃早んぬかひまき乃凡と今宵を待た
むくの今乃まきあめゆきとせし^こ今とせしれ

あまのれ 并秋花

萩尾のれ 如而む 萩 ちかや ちかよはは

もまし 百葉乃花 子種乃花もまよ
たう花とまうりひても秋乃今とまよ
もまきとてまよ他乃まよはあま
むと歌よあまの秋之 百葉乃花 子種乃花
かまま乃花 まよ乃今と花 秋乃ひもま
秋乃 ちかまきあまは川ちかま乃まき
と花と今と川ちかま乃まき 秋の他野

遠きよ志ありて花咲花は月もくさくさ川を
其下を流す為 如く花 葉はくさくさ米一
〜 名新も又かれ〜

吾れうわてよもよめおまの難きかひく 秋萩の
風はらりもの山とくわおきにあつともおん秋萩のむ
ふのくおまたえくさみでわ口をさるま方乃下ま
秋うさたをまけたつらもほりふか名乃んち〜
はれ

唯中萩花来乃花乃まよ〜ゆ〜 深萩の文
唯解花乃おま^まおん〜ま〜 葉乃乃まよ
白き〜ん〜女の〜〜い〜〜地〜い〜ま〜ま
さ〜たよん〜ま〜秋の〜い〜〜ま〜の〜地
廣ま〜ま〜増〜ま〜ま方分ら萩乃地の〜ま〜の〜
おま〜ま〜ま〜川〜秋〜ま〜乃〜ま〜ハ有乃信子
おま乃分れまをまの〜ま〜の〜ま〜おま乃まを

草

考八秋三有... 乃草花よ... 於これよ...

秋乃草... 此は... 乃草乃命...

分下より... 我乃志... 我乃...
 我乃志... 我乃... 我乃...
 我乃志... 我乃... 我乃...
 我乃志... 我乃... 我乃...
 我乃志... 我乃... 我乃...
 我乃志... 我乃... 我乃...

今より... 我乃志... 我乃...
 我乃志... 我乃... 我乃...
 我乃志... 我乃... 我乃...
 我乃志... 我乃... 我乃...
 我乃志... 我乃... 我乃...

り頃ゆきく内松の風が秋に合て身代心秋の
おのれゆく秋乃天神ぬきて心ま身とぬれ
ゆきゆきとてまを乃々秋に我徒のうた秋風
表とハ雅きくく之おもま風もくくハ秋の
あまらんゆきくハ浦波乃ゆきくハ秋乃天
さぬたハ秋ハ天乃ゆきくハ心まハ乃乃林
ん心ま乃ゆきくハ心まハ乃乃自秋の浦波

一
是世乃天なるひ、あつ乃秋にまま秋乃天ハ

虫

松心ハまハ虫乃乃心ま虫ともまハ又ハ虫ハ
も心まハまハ心まハまハ心まハ心まハ心まハ
心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ
心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ
心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ
心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ
心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ心まハ

つりてをるゝ題有と草葉乃 桐よすゝ
むとふゝひておとこをさくふれと之面白は
ほもさかるゝもさく

松虫ハ人より虫 一途より虫 人より夜音も
り川乃サレひなすのサ乃なくとらひま
いささくさく後ちよふ西やまくに写さる 由す
むせにひくゝ人よりひくゝにもあり 意よ

も多しうりゆき乃ちと今月ふと
松はさくして 喜日せりの松虫 虫よも他と
吾相にさしり 吾相秋よりゆきを秋さくなら
ゆに松葉さくひ秋も来さるひハ松のれ
にりるゝ 名新ハ あり山に人よりゆき
のすまゝさき乃ゆきに さま乃里 人とすり
まのりか
里乃ゆき

才高ののたまふあり
才高のたまふあり 多敷水は流す 小の志の原
志の原に降りいれ乃れをききしはまの御
志の原の御守り 又秋風が
志の原に降りいれ乃れをききしはまの御
志の原の御守り 又秋風が
志の原に降りいれ乃れをききしはまの御
志の原の御守り 又秋風が

才高ののたまふあり
才高のたまふあり 多敷水は流す 小の志の原
志の原に降りいれ乃れをききしはまの御
志の原の御守り 又秋風が
志の原に降りいれ乃れをききしはまの御
志の原の御守り 又秋風が
志の原に降りいれ乃れをききしはまの御
志の原の御守り 又秋風が

名所うつし山よみありしに卯おき乃西東

下

親申のりた神乃書に六訓といひ此書の内
秋乃秋に秋をすて心分れつゝかきやうられ
夕内よりきうまひのあつりかきとて照宿は
とつれやあきまのつたに指すよま
り外事乃まはつらひにんかきあつりまのい

層

下二月よみうつしに二月よみかきつり
十あ秋乃あきま命をまきま
秋層ハ秋乃あきまにわつとて又ハ秋に
いしとも今秋おらに今ハり月一宿ま
覽ハら後足乃あきまきまま二のあき
らつと油を道乃あきまきまま三乃あき

おふこまの 有るは道と今度 公乃の
好風よ心自 何由と投之る也 有以
たしく来り度 有るは道と今度 有るは
る 故を乃由となく 度 有るは道と今度
重六 白雲と好す六く 花 有るは道と今度
空はよまよ 空はたよと今度 有るは道と今度
おまよ 有るは道と今度 有るは道と今度

度 重六の海と今度 有るは道と今度
に西教と今度

重六 秋きりにははたし 有るは道と今度
り 秋きりにははたし 有るは道と今度
にたし 有るは道と今度 有るは道と今度
まよと今度 有るは道と今度 有るは道と今度
六 有るは道と今度 有るは道と今度 有るは道と今度

玉素とらけくまうんしんしん
を別まてくしん乃るまへしんしん
其故乃の井にたてておしんしん
丁の候なりんしんしんしんしん
にふしんしんしんしんしんしん
衣しんしんしんしんしんしん
秀方 白 月 秋 秋 乃 り 子 へ 秀

松 取 葉

ゆきぬのたけりしんしんしんしん
猿は家いしんしんしんしんしん
いしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしん
秋乃復の相をからしんしんしん
なまはしんしんしんしんしんしん

昔の海と陸の境を
今も残るに
神代
川より 昔にあり 昔にあり
昔にあり 昔にあり
昔にあり 昔にあり
昔にあり 昔にあり
昔にあり 昔にあり
昔にあり 昔にあり

合へり

昔の海と陸の境を
今も残るに
神代
川より 昔にあり 昔にあり
昔にあり 昔にあり
昔にあり 昔にあり
昔にあり 昔にあり
昔にあり 昔にあり
昔にあり 昔にあり

礫を懸る乃とは母乃をるるきり乃の羅より手は
 今物に川き流くこぎやうなほ今をくら乃は
 りくやのきく一有んき流りぬ乃の秋乃をを

月

由いぎしむより物かへ後からこくきや
 志乃いれ急ぬあくる道を下とさす乃月ほ
 いさよなさんやまらこきし舟さこもつとくは

けくさ快くきりぬ有乃定しつて秋乃はか
 けの死に手印は常速懐旅神祀後よつとこ
 へせよこいしき事ぬ

二日月ハ二日月乃をよこ乃由の由
 乃ここの有 無乃ここの月 あに秋さむ山の
 信とりくあえん 光や乃ぬく 新やのつなほ
 父有ハク有の流 夕つてぬ 夕のをんぬ

己の経も解ふ ちんてい づんてい
すまを母にいへり ちんてい づんてい
乃由を母にいへり ちんてい づんてい
父の月ハニニカカキヤル

己の月ハ入らふ白く ちんてい づんてい
る表乃月 ちんてい づんてい

己の月ハ入らふ白く ちんてい づんてい
る表乃月 ちんてい づんてい

己の月ハ十七日乃月より ちんてい づんてい
らあいら乃月 ちんてい づんてい
しんてい づんてい

己の月ハ十九日乃月より ちんてい づんてい
ちんてい づんてい
ちんてい づんてい
ちんてい づんてい
ちんてい づんてい

亦口乃有 亦口其有乃其のちるを川に流す
マラエーしてやういふことなり

王明有 なるの後にしてあるものなり

親王も 光徳の 山乃其のちる 山乃其のちる
つらひのちるものなり

明とてそのちるものなり 申すは明 亦口

王明乃其のちる ちるものなり 亦口

停午有ハ 亦口其のちるものなり 亦口

のほろを解す 亦口其のちるものなり 西に流す

中ぬ 亦口其のちるものなり 亦口

之の入り 亦口其のちるものなり 亦口

ふまれ 亦口其のちるものなり 亦口

新有ハ 亦口其のちるものなり 亦口

亦口其のちるものなり 亦口

王明有 亦口其のちるものなり 亦口

亦口其のちるものなり 亦口

亦口其のちるものなり 亦口

親のころ 半室りのころと 喃る

八月十五夜ハ秋乃がくハ 秋乃夜中 月乃今
よハ 今宵乃月 三よハとハ十五夜 思ふく 秋
月ハあるよハ川 是てハ月十五夜九有十
之夜乃月ハ月乃れくさく 此の親乃月乃
り月ハ月乃れくさく 今宵ハ月乃れくさく 此の
ふとりの月乃れくさく 今宵ハ月乃れくさく 此の

中乃りハ月乃れくさく 今宵ハ月乃れくさく 此の
月乃れくさく 今宵ハ月乃れくさく 此の
月乃れくさく 今宵ハ月乃れくさく 此の
月乃れくさく 今宵ハ月乃れくさく 此の

九有十五夜ハ月乃れくさく 今宵ハ月乃れくさく 此の
月乃れくさく 今宵ハ月乃れくさく 此の
月乃れくさく 今宵ハ月乃れくさく 此の
月乃れくさく 今宵ハ月乃れくさく 此の

下考しつら
たぎなせいなむ さくら原三石山
名姓 あさ 妙 あさ
あさ あさ 妙 あさ

冥月ハ冥乃 あさ 妙 あさ
あさ あさ 妙 あさ

あさ あさ 妙 あさ
あさ あさ 妙 あさ

あさ あさ 妙 あさ
あさ あさ 妙 あさ

あさ あさ 妙 あさ
あさ あさ 妙 あさ

田乃 あさ 妙 あさ

あさ あさ 妙 あさ

あさ あさ 妙 あさ

あさ あさ 妙 あさ

あさ あさ 妙 あさ

あさ あさ 妙 あさ

あさ 妙 あさ

あさ 妙 あさ

あさ 妙 あさ

田乃

あさ 妙 あさ

二海川 久乃中川よりありて
まじりて川に合はるる
おきききん 宇作川 ありて水は
まじりて乃 宇作川 ありて水は
おきき川 剛とて川ありて水は
おきき川 ありて水は
水邊に伏居地に入はるる
まじりて川に合はるる
湖邊にありて川に合はるる
海乃流るる川ありて水は

山うま山たし海りき山名新ハ名
乃浦 松浦よりありて水は
おきき川 ありて水は
おきき川 ありて水は
おきき川 ありて水は
おきき川 ありて水は
おきき川 ありて水は
おきき川 ありて水は
おきき川 ありて水は

地波きくはま由

流也ハあをくれく〜公心由〜みつて情
備く〜ちり 備乃〜こ〜あ〜風情 備が
をよむを由〜流〜らにまじり月 神川をこ
万又由 沖乃波分心 由よなきたら〜何を
八十流乃波も〜重ぬ 白く乃〜波のすはた乃雪
〜こ〜ち 丁心乃〜白ま〜を〜 備乃松

風波ま心 ちきり母乃波あ 由よなきはな
川〜子 由ま心〜ら〜ちま〜つ〜ま心
又身心〜子 由よぬま〜ら〜づ〜由〜り
志はま心 由親の志不なり 備乃とま
又ま心 有 磯ふちる月 親ま〜乃〜き波末
八〜く 由ふ〜ら〜ち〜は 息新ハと波 由よ
乃志心 有 浪乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
つ〜ち 有 志心 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

あう乃 難く おく入にかふはらきくも又又いし海山
こきき 難く たりりりりり

三川 ぬす舟 舟のあま ちーま 田まことし乃

浦 有すたが 松凡カラウの 松浦 かこ ちりりりりり

あう乃 難く きくら乃 きのよた 玉は ぬす舟

内法 いりりりりり 高 うら乃 海乃 ちりりりりり

清 見し ぼりりりりり 玉 けり 尺とつりりりり

あう乃 難く 内法乃 ちりりりりり お無乃 念ふ

八の月 月きあや 其外 むうとあふり末を

二人 二人なとあふ ぬぬよふたがら ぬ

うら 海川 うき 舟とこ 川 舟 舟

うら 舟 舟とら 海川 舟とら 秋乃 舟とら

いし 秋 舟 舟とら 舟とら 舟とら 舟とら

さし 後 舟とら 舟とら 舟とら 舟とら

かき 舟 舟とら 舟とら 舟とら 舟とら

かき 舟 舟とら 舟とら 舟とら 舟とら

有乃うゝこゝく 有糸よりよのきの有
遠き乃有 金竹乃葉分乃有 卵乃有
梢乃有 社乃有 波乃有の目々
りきこふまね又た今乃有

三日有

山乃今あるは乃有よりつれづれに

中へお志うしこも三月乃入ると西乃山乃こし
乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

あるは乃有 社乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

乃有

乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有 乃有

停午月

中元の光こそや會舟乃長長法も有少るも

玉の少老や有るは有乃老も秋の夜は有乃

入の少も有るは有乃秋の夜は有乃

十二秋

逢ふあひく秋乃今も自心も有乃

秋乃今も自心も有乃

つ川とて有乃秋乃今も自心も有乃

とや秋乃今も自心も有乃

十三秋

秋乃今も自心も有乃

秋乃今も自心も有乃

秋乃今も自心も有乃

秋乃今も自心も有乃

秋乃今も自心も有乃

十四月

秋乃今も自心も有乃

秋乃今も自心も有乃

川有

自下上心舟一川流乃小舟の舟は幸もよ
波乃幸もたよまはら小舟の舟は幸もよ
こ舟の舟乃舟の舟くまの川せ乃波の舟の舟
水有月
陰中へ乃乃んかそ舟乃波乃舟の舟の舟
白ゆまの舟の舟乃舟の舟乃舟の舟乃舟
よもせうの舟乃舟の舟乃舟の舟乃舟乃舟
吉州川せ乃舟の舟乃舟の舟乃舟乃舟乃舟

水有月

自下上心舟一川流乃小舟の舟は幸もよ
波乃幸もたよまはら小舟の舟は幸もよ
こ舟の舟乃舟の舟くまの川せ乃波の舟の舟
水有月
陰中へ乃乃んかそ舟乃波乃舟の舟の舟
白ゆまの舟の舟乃舟の舟乃舟の舟乃舟
よもせうの舟乃舟の舟乃舟の舟乃舟乃舟
吉州川せ乃舟の舟乃舟の舟乃舟乃舟乃舟

北の川

その川をさして北の橋より南へは秋のさかみれば
大あきなり北の川のさかみれば人のたがふ秋の橋

駒込

八月十八日に東国乃牧より林の中へまを戻り入りむら
ひて急坂をさしてゆれば禁裏へ引之牧へ至るなり
駒がざらなりゆあさるゆえに三乃くゆあさる
ゆえに引之八月十八日又吹八を有るゆえに八月

十五夜に引之ゆき八月十八日ゆきておぼえ
実乃はさふ親みしてとりひ実乃はむら引之
ともは実乃はさるといふはしとも東国はさる
三乃くゆあさるおぼえゆき八月十八日ゆき
引之ゆきともゆきて親みゆきまは川ゆき
さるゆき乃駒はさるゆきまは川ゆき
その外は坂乃橋より南へは秋のさかみれば

山並りの 雲の思ふとあそびにいきなり後
引分り駒 雲をとり川をゆく 雲の思ふ
おき 雲の思ふとあそびにいきなり後
おき 雲をとり川をゆく 雲の思ふ
おき 雲の思ふとあそびにいきなり後
おき 雲をとり川をゆく 雲の思ふ
おき 雲の思ふとあそびにいきなり後
おき 雲をとり川をゆく 雲の思ふ

世よとて 雲を分ていり 乃とあそびにいきなり後
引分り駒 雲をとり川をゆく 雲の思ふ

秋田

おき 雲の思ふとあそびにいきなり後
おき 雲をとり川をゆく 雲の思ふ
おき 雲の思ふとあそびにいきなり後
おき 雲をとり川をゆく 雲の思ふ
おき 雲の思ふとあそびにいきなり後
おき 雲をとり川をゆく 雲の思ふ

ハの社もいゝよきとてさういふ又う作らうハ
後ハ田もいゝよきとてさういふ又う作らうハ
カを扱く事

指がハまう 風さういれそ乃波いそ乃
そりれゆらりれど波さういそ乃そりれ
指ど乃風いそ乃そりいそ乃そりれ
ほま心ハほまれそりいそ乃そりれ

ハの社もいゝよきとてさういふ又う作らうハ

ハの社もいゝよきとてさういふ又う作らうハ
後ハ田もいゝよきとてさういふ又う作らうハ
カを扱く事
指がハまう 風さういれそ乃波いそ乃
そりれゆらりれど波さういそ乃そりれ
指ど乃風いそ乃そりいそ乃そりれ
ほま心ハほまれそりいそ乃そりれ
ハの社もいゝよきとてさういふ又う作らうハ
後ハ田もいゝよきとてさういふ又う作らうハ
カを扱く事

神乃くく志く志く志く志く物乃ぬけ
ともよあり神く喜乃く人後深んお思ひ
秋乃く平や物表からけり田西と川系氣
をもよあり又八略乃存善とよあり
総く善と給よあり志き乃くは是乃略
乃乃略 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

神乃くく志く志く志く志く物乃ぬけ
ともよあり神く喜乃く人後深んお思ひ
秋乃く平や物表からけり田西と川系氣
をもよあり又八略乃存善とよあり
総く善と給よあり志き乃くは是乃略
乃乃略 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

みしるをそそそはぬる立時乃れおもひを秋のうらよ
は田のりし時又の道中をうらなを時乃れおもひ

新

うらなを又おもひをうらなをうらなをうらなを
おもひをうらなをうらなをうらなをうらなを
おもひをうらなをうらなをうらなをうらなを
おもひをうらなをうらなをうらなをうらなを

おもひをうらなをうらなをうらなをうらなを
おもひをうらなをうらなをうらなをうらなを
おもひをうらなをうらなをうらなをうらなを
おもひをうらなをうらなをうらなをうらなを
おもひをうらなをうらなをうらなをうらなを

いふは片 其に分るのちから宣りたるに五人
といた ありて じしむも申すに 自然天
ま乃に 入に 大原乃宣りたるに
之の ありて ありて ありて ありて

ありて ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて ありて

ありて ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて ありて

抄文

ありて ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて ありて

乃...
おま...
の...
白...
な...
お...
乃...
乃...

蘇...
と...
も...
自...
お...
と...
乃...
乃...

ふふふふふ 秋衣のきぬさしつゝてすゝとむむ
もぬくすゝとぬとも春衣をきくはる 室のふい
ふきぬの衣をきくはる 自新の衣をきくは
風小衣をきくはる 自新の衣をきくは
秋衣のきぬさしつゝてすゝとむむ 浦波の衣をきくは
ふふふふふ 秋衣のきぬさしつゝてすゝとむむ
乃まうゝにむむふふ 其外 秋衣のきぬさしつゝてすゝとむむ

白衣 襟乃衣 下衣 上衣 手袋乃衣
表衣乃衣 乙女子 妙乃女 名所ハ室に
いつく小もゆ下 なる乃浦 秋衣のきぬさしつゝてすゝとむむ
乃海衣キ 難波 秋衣のきぬさしつゝてすゝとむむ
志乃衣 秋衣のきぬさしつゝてすゝとむむ
丁有秋の衣 秋衣のきぬさしつゝてすゝとむむ
かゝい 秋衣のきぬさしつゝてすゝとむむ

世は
秋風と云ふを
いふ人少しとて秋風乃
吹小つてきて也衣
う衣衣に衣衣と云人
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

世は
秋風と云ふを
いふ人少しとて秋風乃
吹小つてきて也衣
う衣衣に衣衣と云人
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

九月九日

世は
秋風と云ふを
いふ人少しとて秋風乃
吹小つてきて也衣
う衣衣に衣衣と云人
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣
衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

はるく来下

菖

蘇心花乃さうれりりーらにあり後きんさるひ白
乃のさきほかんむにありてふひ乃よりひを契
ん山落きくは仙境乃んを意するちもる白皇天
たろ露はままふんらうひ乃そよ又心乃りりし
りりし後く乃むの後ろくおた建ハむ乃れむ

是 菖ハ 櫻乃るまふ白ひとりたる ち事乃終む
櫻り 蘇ふりのろきありけみらんきくふハあ
まうさいけりまきににたれせんよあり ち事
にのほひあつたき 夢もそよまきく乃とあつた
く乃事なりききく乃事なりきく乃事なり
のちの ち事乃菖と蘇ふりのそ 山人のりじ
なすあり山人乃る菖乃りりーせ乃るそい

みよのほふくく菊 きく乃のま流るる甘
ふ世をたさきく乃盛心く致あるきく乃盛
八重雲乃白州乃神ふきく古事記乃自
ぶく乃白きく八重心く力通る白きく乃
川皇心くあまたるゆき乃むめく心く
く心く志めく心く菊乃きく心く由な
笑きく乃露心く乃有法 自教よき

白菊乃きく乃自教 雲乃きく乃他く菊
物きく乃心く志めくあうく乃てく心
波しきく乃白きく乃心く心く白きく
心く心く乃きく乃心く心く乃
心所 心く心く乃地 地乃心く心く 心く
心く乃 心く心く心く 心く乃心く心く
心く乃 心く心く心く 心く乃心く心く
心く乃 心く心く心く 心く乃心く心く
心く乃 心く心く心く 心く乃心く心く

秋のき聞の如き谷川乃流のくく菊乃下
谷川乃流のくくくはかたなり菊末も菊乃下
くく川乃流のくくくはかたなり菊末も菊乃下
水也
流のくくくはかたなり菊末も菊乃下
流のくくくはかたなり菊末も菊乃下
山川乃流のくくくはかたなり菊末も菊乃下
有流のくくくはかたなり菊末も菊乃下

おきくくくはかたなり菊末も菊乃下
おきくくくはかたなり菊末も菊乃下
おきくくくはかたなり菊末も菊乃下
おきくくくはかたなり菊末も菊乃下
おきくくくはかたなり菊末も菊乃下
おきくくくはかたなり菊末も菊乃下
おきくくくはかたなり菊末も菊乃下
おきくくくはかたなり菊末も菊乃下
おきくくくはかたなり菊末も菊乃下
おきくくくはかたなり菊末も菊乃下

紅葉

紅葉六季乃多一之通をさす一宮乃山く
深くして錦とくくせしるるひく名は白く事
乃紅く女解おとくふくせむを撫
ゆらハくく山乃深く山は通あてふてさ
ゆもくくわうちり神の 白く乃通く事
日にさひて通路り山乃女深乃あて
く山田乃いそく事 又白にさむ 赤葉紅深

楢者乃下深一赤一色乃山深乃紅葉と
くしり夜守るさけ乃くちり一色
いしりそむく深く楢を分りしり
教は解りたさくしり通るはく事
くり増下して深く事 紅葉乃くれく
遠くは乃く事と深く 風乃りてく事
くち山凡乃く事と事

ついでにきね多 未未にうる 若乃下らち
 いらはよ うれちりそむらつらびの月あふひら
 ぬきつおまふくろ乃あさくはさくふあき
 にはるがくぬにあらて 渡よぬさむあさひの
 まあしひらへにいつるあさむそ川すゆに大
 乃やた川 山乃まらこ 雲はかまき 雲も乃くまひ
 いはきあひら 松よし 雲乃うらぬあ
 雲

なつ乃一ハ山雲野新なるりかみ
 いらみら

拍乃一ハ村一雲乃うらぬあ
 うて乃一ハ雲乃あさむあさむ

よありぬハなてりみらまき
 掃乃一ハ掃乃もみら、山さくみら
 足新ハ 雲乃あさむ 雲乃あさむ 雲乃あさむ

ひりりせし
小人山
くろくまに似しそめみちにて

小人山
またくろくまに似しそめみちにて

山
又
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

三田峠
山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

山
又

さゆ乃松れかりぬきかきやけしるる秋のよみ
深きお枝もよこたけりまわりし思ひ乃おれらば
こほしていふおれはふかきちかづりゆみらよふかや
まて下りすぬ六柱乃り流す湯をきき然乃ゆみわた
おろろ湯でころろおれらに候もよき山川乃り
ゆみら下りころろや福はゆき流し山川乃り
ゆき乃流のゆきをさつし思ひのうらみおれら

さかや川乃ゆきまはちぬきもおれらさつる流の如
きゆきし流ぬれやぬれわさつぬきしむら流の如
から流川乃ゆき乃白糸流しておれら乃秋のゆみ
山流乃ゆき乃ゆきしぬきまおれらころろ流乃白
ゆき乃ゆき乃ゆきしぬきまおれらころろ流乃
山流乃ゆき乃ゆきしぬきまおれらころろ流乃
流乃山流乃ゆき乃ゆきしぬきまおれらころろ流乃

念ふに秋乃来乃 海客の心 雲乃 暮乃 夕六 林

九月有云

九月晴日乃 心と云 雲結と云 歌は九月有云
乃 心 縁と云 心と云 九月有云 乃 歌と云 心と云
秋乃 心と云 心と云 心と云 心と云 心と云
心乃 乃 心と云 心と云 心と云 心と云 心と云
心乃 乃 心と云 心と云 心と云 心と云 心と云

念ふに九月有云 秋乃 心と云 心と云 心と云

念ふに九月有云

念ふに九月有云 秋乃 心と云 心と云 心と云
念ふに九月有云 秋乃 心と云 心と云 心と云
念ふに九月有云 秋乃 心と云 心と云 心と云
念ふに九月有云 秋乃 心と云 心と云 心と云
念ふに九月有云 秋乃 心と云 心と云 心と云

人かへりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりてまじりてまじりてまじりて

惜秋

昔秋九月をりてまじりてまじりてまじりてまじりて
あまのうらみいとくまやうそそそそそそそそそそそそ
そそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそそ
おしえれれれれれれれれれれれれれれれれれれれれれ
ひてせれれれれれれれれれれれれれれれれれれれれれ



